

令和 2 年 6 月 19 日現在

機関番号：25302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K02222

研究課題名(和文) 南西諸島における自然説明伝説の調査研究

研究課題名(英文) A Study of Nature Explanation Legends in the Ryukyu Islands

研究代表者

原田 信之 (HARADA, NOBUYUKI)

新見公立大学・健康科学部・教授(移行)

研究者番号：60290508

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目標は、南西諸島各地に伝承されてきた自然説明伝説を、南西諸島各地で直接聞き取り調査して記録するとともに総合的に比較研究し、民間伝承の世界における自然説明伝説の特徴や意味を明らかにすることにある。そのために、平成27年度から令和元年度にかけて、鹿児島周辺離島・奄美諸島・沖縄諸島・宮古諸島・八重山諸島それぞれに伝承されている自然説明伝説をゆかりの地に行き直接聞き取り調査した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義および社会的意義は、南西諸島の口承文学研究においてこれまで採集も研究もあまり行われてこなかった伝説研究のうち、特に自然説明伝説に焦点を絞り、消滅の危機にある口頭伝承資料の採集・研究を行った点にある。

研究成果の概要(英文)：In this research, I investigated the nature explanation legends in the Ryukyu Islands. Investigation areas are the Kagoshima outskirts remote islands, Amami Islands, Okinawa Islands, Miyako Islands, and Yaeyama Islands. I went to these islands and investigated the nature explanation legends. This research was conducted from 2015 to 2019. The substance of the nature explanation legends of Ryukyu Islands was clarified by this research.

研究分野：日本文学

キーワード：自然説明伝説 南西諸島 奄美諸島 沖縄諸島 宮古諸島 八重山諸島

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究と関連する研究領域としては、日本本土の伝説研究の領域と、『おもろさうし』などの文献を中心とした琉球文学研究の領域と、歴史学の立場からの研究の領域がある。文献を中心とした文学研究領域の研究成果と歴史学の立場からの研究成果を積極的に利用しつつ、文献研究とは異なる口承文学研究の立場からの考察を試みる。南西諸島の口承文学の研究は、昔話の採集と記録が中心で、伝説に関しては採集も研究もあまり行われてこなかった。研究代表者原田信之はこの研究課題に密接に関連した研究課題「南西諸島における英雄伝説の調査研究」において、奄美諸島・沖繩諸島・先島諸島それぞれに伝承されている主要な英雄伝説の調査を行った。続いて、研究課題「南西諸島における豪族伝説の調査研究」において、奄美諸島・沖繩諸島・宮古諸島・八重山諸島それぞれに伝承されている豪族伝説をゆかりの地に行き直接聞き取り調査して研究した。続いて、研究課題「南西諸島における文化叙事伝説の調査研究」において、大隅諸島・トカラ列島・奄美諸島・沖繩諸島・宮古諸島・八重山諸島それぞれに伝承されている文化叙事伝説をゆかりの地に行き直接聞き取り調査して研究した。続いて、研究課題「南西諸島における事物起源伝説の調査研究」において、奄美諸島・沖繩諸島・宮古諸島・八重山諸島それぞれに伝承されている事物起源伝説をゆかりの地に行き直接聞き取り調査して研究した。これらの調査をへて研究が深まるにつれ、南西諸島における伝説研究は、自然説明伝説というさらに広い視点から総合的に考察を加えなければ全貌が把握できないことを痛感するようになった。したがって、本研究課題では、鹿児島周辺離島・奄美諸島・沖繩諸島・先島諸島の島々のうちこれまで調査できなかった島々の調査を、自然説明伝説にまで範囲を広げて調査研究することを目指した。

2. 研究の目的

南西諸島には多くの島々があり、それぞれの島ごとに独自の文化がある。本研究では、南西諸島全域(九州島と台湾島とのあいだに弧状につらなる島々)を研究対象地域とし、鹿児島周辺離島・奄美諸島・沖繩諸島・先島諸島各地で直接聞き取り調査して研究することとした。本研究課題は、南西諸島各地に伝承されてきた自然説明伝説を、鹿児島周辺離島・奄美諸島・沖繩諸島・先島諸島各地で直接聞き取り調査して記録するとともに総合的に比較研究し、南西諸島における自然説明伝説の特徴や意味を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は平成27年度から令和元年度にかけて南西諸島全域での実地調査を行った。各地域の自然説明伝説は、それぞれ独自の個性を持つとともに、それぞれ魅力的な伝説が多数伝承されている。それらの伝説の意味についても、ていねいに考察を加えてゆくことを目指した。平成27年度は、鹿児島県各地及び鹿児島周辺離島で自然説明伝説に関する実地調査を行った。鹿児島県各地では南九州市知覧町・日置市伊集院、鹿児島周辺離島では上甕島・中甕島・下甕島を調査対象地とした。平成28年度は、奄美諸島及び沖繩諸島で自然説明伝説に関する実地調査を行った。奄美諸島では奄美大島・喜界島、沖繩諸島では渡名喜島を調査対象地とした。平成29年度は、沖繩諸島及び奄美諸島で自然説明伝説に関する実地調査を行った。沖繩諸島では座間味島・阿嘉島・慶留間島・渡嘉敷島、奄美諸島では奄美大島・喜界島を調査対象地とした。平成30年度は、宮古諸島及び沖繩諸島で自然説明伝説に関する実地調査を行った。宮古諸島では宮古島・池間島・伊良部島・来間島、沖繩諸島では粟国島を調査対象地とした。令和元年度は、沖繩諸島及び八重山諸島で自然説明伝説に関する実地調査を行った。沖繩諸島では沖繩本島・久米島、八重山諸島では与那国島・小浜島・黒島・石垣島を調査対象地とした。

4. 研究成果

(1)平成27年度の成果

平成27年度は、鹿児島県薩摩川内市甕島列島の上甕島・中甕島・下甕島および鹿児島県南九州市知覧町・日置市伊集院、沖繩県那覇市で自然説明伝説に関する実地調査・文献調査を行った。調査は、第1回平成27年8月6～18日甕島列島の上甕島・中甕島・下甕島、第2回平成27年9月10～15日鹿児島県南九州市知覧町・日置市伊集院、第3回平成27年9月24～29日沖繩県那覇市の計3回行った(総計25日間)。上甕島では、「甕島」(島名説明伝説。甕神社ご神体である甕形の巨岩による)、「唐船が艦」(岬名説明伝説。宝龜9年778 帰国途中の遣唐使船第1船が遭難し舳と艦に折れ、艦部が上甕島に漂着したとされる)、「唐船が鼻」(岬名説明伝説。遣唐使船の舳部が漂着したとされる 実際は、舳部は西仲島(出水郡長島)に漂着。別の難破船に由来するものか不明)、「七人合頭・八人合頭(しちりがとう・はちりがとう)」(地名説明伝説。先住民と小川氏の戦闘での戦死者を合葬した地とされる)、「ポーズギー」(地名説明伝説。坊主を切った地とされる)、「堂の元」(地名説明伝説。処刑場跡とされる)、「トーレイ」(地名説明伝説。キリシタン教会の塔があったとされる)、「かくれ山」(地名説明伝説。隠れ念仏の跡地とされる)、「琉球人墓」(墓名説明伝説。琉球人を葬ったとされる)、「長目の浜」(浜名説明伝説。19代薩摩藩主島津久光が巡視した時に眺めが良いことから命名したとされる)、「海鼠池」(池名説明伝説。ナマコが捕れることから命名)、「貝池」(池名説明伝説。貝が捕れることから命名)、「鰻池」(池名説明伝説。ウナギが捕れることから命名)、「カノコユリ」(花名説明伝説。花の斑点が鹿の子の斑点に似ていることから命名。甕島列島原産とされる)、「天馬の足跡」(石説明伝説。桑之浦のアコギ山にある石の穴は天馬の足跡・馬蹄石とされる)などを中心に調査を行った。中甕島では、「小池の墓」(墓名説明伝説。台風で遭難したオランダ人を「小

池」という地に葬った。工事で消滅)「弁慶島」(島名説明伝説。弁慶が流されてきた)「小池」(地名説明伝説。小さい池があった。工事で消滅)などを中心に調査を行った。甑島列島の下甑島(鹿児島県薩摩川内市)では、「トシドン石」(石名説明伝説。瀬々野浦の来訪神トシドンが宿る石とされる)「手掛石」(石説明伝説。瀬々野浦の山道にあり、平家の子孫が死んだ時この石に手をかけて通るとされる)「八艘穴(はっそうがあな)」(穴名説明伝説。平家落人が軍船を八艘隠したとされる)「痲瘡墓」(墓名説明伝説。江戸時代に痲瘡で亡くなった人たちの墓)「十六人瀬」(瀬名説明伝説。片野浦にある瀬で十六人が遭難死した)「ウマノイ瀬」(瀬名説明伝説。手打の港地区のトシドンが首切れ馬に乗って天上から降りてくるとされる)「隠れ念仏」(穴名説明伝説。内川内山中にある穴は隠れ念仏の跡地とされる)「手打」(地名説明伝説。ここはいい所と手を打ったからとされる。お手打ち説もある)「隠れ念仏」(丘名説明伝説。鹿島にある丘は隠れ念仏の跡地とされる)などを中心に調査を行った。また、8月16日に鹿児島県歴史資料センター黎明館で開催された2015年度奄美沖縄民間文芸学会鹿児島大会で「トカラ列島中之島の海賊伝説 与助岩とブトの起源」のテーマで発表を行った。知覧町では、源為朝の腰掛石(石名説明) 為朝の足洗石(石名説明) 為朝の鞍掛松跡(松名説明) 陣の迫(地名説明) 鎮西(地名説明) などを中心に調査を行った。日置市伊集院では、恋之原(地名説明) 為朝松跡(松名説明) 為朝(地名説明) 為朝の手水鉢(石名説明) 古城(地名説明) 矢筈岳(山名説明) 矢筈の池(池説明) などを中心に調査を行った。地域独自の歴史伝承が自然説明伝説に大きな影響を与えていることが確認された。那覇市では、沖縄県立図書館・那覇市立図書館などで関連資料を調査研究した。

(2)平成28年度の成果

平成28年度は、鹿児島県奄美諸島の奄美大島および喜界島、沖縄県沖縄諸島の渡名喜島で自然説明伝説に関する実地調査・文献調査を行った。調査は、第1回平成28年8月4～16日奄美諸島の奄美大島・喜界島、第2回平成28年9月2～13日沖縄県沖縄諸島の渡名喜島の計2回行った(総計25日間)。奄美大島瀬戸内町では「勝浦」(地名説明。争いに勝った) 龍郷町では「星窪」(地名由来) 大和村では「トホゴモリ」(淵名由来。蛸淵の意)「大和(ヤマト)」(地名由来。遣唐使船寄港由来説と大姓和姓由来説がある)「津名久」(地名由来。船を繋ぐ意)「トゥルス岩」(岩名由来。通る岩の意)「スノビラ」(峠名由来。神の休憩場)「足跡岩」(岩名由来。実久三次郎の足跡) などを中心に調査を行った。喜界島(喜界町)では、「太鼓石」(石説明)「ワリディー」(岩名説明)「ウマヌヒャーデー」(石説明)「ハナウミ田」(地名由来)「セテガー」(洞窟名由来)「大城久」(地名伝説) などを中心に調査を行った。沖縄諸島の渡名喜島(渡名喜村)では、「渡名喜」(島名説明伝説。トナキサトヌシという人とその子が入砂島に来て渡名喜島の元になった)「シマノーシ」(祭事説明伝説。島直しの意味か。3年に1回渡名喜島で行われる祭事)「カイヤ」(地名説明伝説。飯屋の意味で琉球王国時代に首里から来た役人が住んでいた)「ヒータティ」(地名説明。火立ての意味。琉球王国時代に唐船が通った時ノロシをあげた場所)「タレーマ」(岩名説明。多良間の意味。多良間島の人遭難した時の遺骨が岩間に葬られている)「アハラー」(岩名説明。渡嘉敷島阿波連の意味。渡嘉敷島阿波連の人が攻めてきてその時に亡くなった人の遺骨が岩間に葬られている)「カーシリ」(地名説明。川の尻の意味か。水がわく地)「ナナマーイ石」(岩名説明。七回まわるという意味。祭事「シマノーシ」の神事の際に神人が七回まわる岩)「ナキジンガー」(地名説明。神人がナキジン(今帰仁)の方向を拝む場所)「ハタクヤー」(地名説明。機織り屋の意味か。若者が機織りをしたり遊びをした岩場)「クンリ」(崖名説明。クンリファンガーという人が落ちて死んだ崖)「チキシ」(石名説明。力石の意味か。昔若者たちが競って持ち上げたという丸石)「あがり浜」(浜名説明。「あがり」は東の意味) などを中心に調査を行った。地形や歴史伝承が自然説明伝説に大きな影響を与えていることが確認された。沖縄県立図書館・沖縄市立図書館などで関連資料を調査研究した。

(3)平成29年度の成果

平成29年度は、沖縄諸島の座間味島・阿嘉島・慶留間島・渡嘉敷島、奄美諸島各地で自然説明伝説に関する実地調査・文献調査を行った。調査は、第1回平成29年8月3～15日沖縄諸島の座間味島・阿嘉島・慶留間島・渡嘉敷島、第2回平成29年9月10～19日奄美諸島各地の計2回行った(総計23日間)。座間味島(座間味村)では、「大御嶽(ウフタキ)・中御嶽(ナカタキ)・小御嶽(クタキ)」(地名説明。赤碓御嶽とあわせて島の4御嶽)「番所山(バンドコ口)」(地名由来。唐船の番をして火をたいた)「ウトンマチビー」(地名由来。夫を待つ妻の火玉が出る所)「ウラングムイ」(字座間味。地名由来。ウランダー(西洋人)が上陸)「カンジヤームイ」(字座間味。森説明。鍛冶屋があった)「二本松」(字阿佐。地名由来。大きな松が二本生えていた)「ハンマヨーグムイ」(字座間味。井戸名由来。水の冷たさにハンマヨーと感嘆した)「唐船(トーンシ)グムイ」(字阿佐。船泊まり説明伝説。唐船が停泊した)「唐馬(トーンマ)」(字阿佐。地名由来伝説。唐から来た馬を陸揚げした)「唐船ウカー」(字阿佐。井戸説明。唐船で使う水をくんだ)「ヤドイグチ」(字阿佐。地名由来。唐船から上陸して泊まる仮小屋があった)「渡名喜ムー」(字阿佐。地名由来。渡名喜島に最も近い所)「ジンジンヌワチ」(字阿佐。浜名説明。銭が落ちて拾った)「トーチチ(唐頂)」(字阿真。地名説明。唐船の無事を祈った)「カミヌハマ(神の浜)」(字阿真。浜名由来。神が上陸した浜)「ウフガーラ」(字阿真。地名由来。大きな川原の意で水が出る地) などを中心に調査を行った。阿嘉島(沖縄県座間味村)では、「ツングシク(積城)」(岩説明。積んである石を敵に投げた)「ミルルマンメー

又シチャ」(地名由来。目取真爺さんの骨がある)「唐船グムイ」(船泊まり説明。唐船が停泊した)「ゲルマドー」(海域説明。慶留間島近くにある海の難所)「トナキドー」(海域説明。渡名喜島方面にある有無の難所)などを中心に調査を行った。慶留間島(沖縄県座間味村)では、「慶留間御嶽」(御嶽由来。巖に飲まれたゲルマシーを祀る)「アカウビー」(岩説明。茶色の岩山に赤い帯状の岩が挟まっている所)「バンヤー(番屋)」(地名由来。唐船入港時に火で合図した)「ハカグアヤマ」(地名由来。墓がある)「アカゴーレー」(外地島。地名説明。山肌にある赤茶けた草木が生えない所)「キジムンガマ」(外地島。洞穴説明。妖怪キジムナーが住んでいた)「ヤマトウバマ(大和人浜)」(外地島。浜名由来。昔、遭難したヤマトンチュー(日本人)を葬った)「カツオグムイ」(外地島。地名由来。干潮時逃げ切れなかった鰹がよく捕れた)などを中心に調査を行った。渡嘉敷島(沖縄県渡嘉敷村)字阿波連では、「ヒータティヤマ」(山名由来。合図の火をたいた)「チンペーヤヤ」(離島。洞穴名由来。久米島の神女チンペーが避難した)「ウフイシー」(地名由来。道の横に大きな石があった)「クバ山」(山名由来。クバが生えていた)「カンジャーヤー」(字阿波連。地名由来。鍛冶屋があった)などを中心に調査を行った。渡嘉敷島(渡嘉敷村)字渡嘉敷では、「ヒラマシ田」(地名由来。ペリー一行が来て、昼飯を食べた説と珍しいと言った説がある)「ターチューバカ」(墓名由来。鬼ゲラマが2つ(ターチュー)の墓を作った)「カンジャーヤー」(字渡嘉敷。地名由来。鍛冶屋があった)「ヒータティヤー」(地名由来。合図の火をたいた)「ウシクルシモー」(地名由来。牛を殺した広場)「ンナトゥヌチビ」(地名由来。港の尻)「グシク島」(島名由来。城のような島)「ウフナー」(地名由来。鬼ゲラマがかけた大きな石橋があった)などを中心に調査を行った。奄美大島龍郷町では、「シュバマ(塩浜)」(地名説明)「ホウノシ」(地名説明。琉球征伐時滅びた豪族の屋敷跡)「トウスイングモリ」(淵名由来)「唐人墓」(地名説明)「テリ山」(地名説明)などを中心に調査を行った。喜界島(喜界町)では、平成29年度奄美沖縄民間文芸学会喜界島大会公開シンポジウムで「岩倉市郎と昔話研究」のテーマで報告した。地形や歴史伝承が自然説明伝説に大きな影響を与えていることが確認された。鹿児島県立図書館・鹿児島市立図書館などで関連資料を調査研究した。

(4)平成30年度の成果

平成30年度は、宮古諸島の宮古島・池間島・伊良部島・来間島、沖縄諸島の粟国島で自然説明伝説に関する実地調査・文献調査を行った。調査は、第1回平成30年7月30日～8月14日宮古諸島の宮古島・池間島・伊良部島・来間島、第2回平成30年9月13～18日沖縄諸島粟国島の計2回行った(総計22日間)。宮古島(宮古島市)では、「ウルカ(砂川)」(地名由来)「バルッキヤ」(地名由来)など。池間島では、「ウトウルシャ」(畑名由来)「カギンミ」(地名由来)「トゥイナツアブ」(洞窟名由来)「ティンカイヌーインツ」(道名由来)など。伊良部島では、「サバウツガー」(井戸名由来)「ヤマトブー大岩」(岩名由来)「フナウサギバナタ」(崖名由来)「白鳥崎」(崎名由来)など。来間島では、「千人原」(地名由来)など。粟国島(粟国村)では、「粟国(アグニ)」(島名説明。水稻ができず粟を主として産したため)「船つなぎ岩」(岩名説明。西集落中心の丘にある岩は周辺が海だった頃に船をつないだと伝えられている)「スク原」(原名説明。スク魚を取っていた所が隆起して畑になった)「寄草原(ヨリクサバル)」(原名説明。海だった頃、海草が流れ寄せられていた所)「洞寺(テラ)」(洞穴名由来。賭けに負けてこの島に流された雲水坊主が住み着いた洞穴なのでテラという)「ボージャー浜」(浜名説明。洞寺に住んだ坊主が上陸した浜)「ボージャーイノウ」(湾名説明。洞寺に住んだ坊主が上陸した湾)「ヤガン大折目(ウフウイミ)」(祭事名由来。ヤガン御嶽の荒神を鎮めるための祭事とされる)「トゥージウサーラー」(地名由来。石造の天水入れの石 トゥージ を掘り出していた時に、崖が崩れて人が押さえられて死んだ地)「御恩石(フンジイシ)」(岩名由来。魔物を村人から守ってくれる恩のある石だから)「龍王ブリー」(岩名由来。雨乞いをした岩で龍王を祀る)「アママオージの絵」(岩模様由来。アマミキヨが描いたという扇形の岩模様)「チャガー」(井戸名由来。チャ(つや)という美人に由来)「キッキョー岩(グラー)」(岩名由来。キッキョーは鳥の鳴き声で、鳥の形をした岩)「ヌルガー」(井戸説明。神女ヌルが使った井戸)「シマンヘーバル」(原説明。島々が南方に見えるから)「ガンシノサチ」(岬名由来。死人を運ぶガン 籠 を焼いたところ)「チチグラ(土蔵)」(丘説明。遭難して助けられた中国人が御礼に土を盛って造った)などを中心に調査を行った。歴史伝承が自然説明伝説に大きな影響を与えていることが確認された。名桜大学(名護市)で開催された平成30年度奄美沖縄民間文芸学会名護大会公開シンポジウム「道の島」と伝承」において、「道の島」の民間説話」のテーマで報告した。沖縄県立図書館など各地図書館で関連資料を調査研究した。

(5)令和元年度の成果

令和元年度は、沖縄本島、沖縄諸島久米島、八重山諸島与那国島・小浜島・黒島・石垣島等で自然説明伝説に関する実地調査・文献調査を行った。調査は、第1回令和元年6月1～3日沖縄本島宜野湾市・那覇市、第2回令和元年8月12～20日沖縄諸島久米島・沖縄本島宜野湾市・大宜味村、第3回令和元年9月5～17日八重山諸島与那国島・小浜島・黒島・石垣島の計3回行った(総計25日間)。宜野湾市では沖縄国際大学で日本口承文芸学会2019年度大会・理事会に参加し、那覇市では沖縄県立図書館で文献調査を行った。久米島ではウニシ岳(山名由来)ハタムグムイ(淵名由来)ヒシククイ石(岩名由来)ンナトンチビ(河口名由来)トーセングムイ(淵名由来)などの調査を行った。宜野湾市では沖縄国際大学で開催された奄美沖縄民間文芸学会2019年度大会及び役員会に参加し、大宜味村では塩屋で行われたウングミ祭事

の調査を実施した。与那国島（与那国町）では、「与那国（ドゥナン）」（島名由来。与那国はゆ
うな ドゥニン の花の意味か）「ウランドゥマイ」（地名由来。昔、外国船 ウランダー（オ
ランダ）が停泊した）「クンマ」（地名由来。貢馬。琉球王に馬を貢ぐために出荷した）「トゥ
ング田」（地名由来。人頭税時代に由来）「クブラバリ」（地名由来。クブラにあるバリ 割れ目。
人頭税時代、妊婦に飛ばせた）「ティンダバナ」（岩名由来。天蛇鼻。外敵が攻めてきた時、稲
妻で蛇が口を開けているように見えた）「イヌガン」（洞窟由来。犬と女が住んでいた）「ウブ
ザ道」（道名由来。大きな蛇の意で、蛇のように曲がった道）「ヤマトバカ」（墓名由来。日本人
の墓か）「アカマル石」（岩名由来。海中にある岩で、魚がよく釣れたので、釣る権利を赤丸の
牛と交換した）「ティウガン」（拝所由来。港のティ 口の意 にある）「ウルク石」（岩名由来。
沖縄のウルク 小禄 から来た妖術使いがいつも座っていた）「カニマチダヤ」（洞穴由来。カ
ニマチという豪傑が住んでいた）「軍艦岩」（岩名由来。形状が軍艦に似ている）「カサハンデ
ィ」（地名由来。ドゥナンバラという偉い按司の墓があるので笠を脱いで ハンディ 通った）
「ンニウルシ台」（崖名由来。船 ンニ を下ろした ウルシ 所）「ミディントゥ」（泉名由来。
水があふれている意）などを中心に調査を行った。小浜島では、スタンダル垣（魚礁由来）、ク
マンザキ（崎名由来）、ウティンガー（滝名由来）、カンドウラ石（石名由来）、フナンザキ（崎
名由来）、フシサダメ石（岩名由来）などを中心に調査を行った。黒島では、トーノブザ（地名
由来）、アサビシバナ（岩名由来）、アダンバル（原名由来）、シツル（地名由来）などを中心に
調査を行った。石垣島では、アイナマ石（石名由来）、フナクヤー（地名由来）、タラマ田（田名
由来）、野底マーペー（山名由来）、ンマミ石（地名由来）などを中心に調査を行った。自然説明
伝説には、地形等に由来するもの、歴史的事件に由来するもの、土地の伝承に由来するものなど、
多様な由来があることが確認された。また、鹿児島文化圏から八重山文化圏までの、それぞれの
文化圏が持つ歴史的背景が自然説明伝説にも影響を与えていることがうかがえた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 原田信之	4. 巻 39
2. 論文標題 沖縄県伊平屋島の海神祭伝説	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新見公立大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 原田信之	4. 巻 8
2. 論文標題 沖永良部世之主伝説と北山文化圏	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 和泊町埋蔵文化財発掘調査報告書(8)－内城泉川古墓群 和泊町の世之主の墓 チュラドゥール3号墓(和泊町教育委員会)	6. 最初と最後の頁 69-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 原田信之	4. 巻 15
2. 論文標題 トカラ列島中之島の海賊伝説 与助岩とブトの起源	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 奄美沖縄民間文芸学(奄美沖縄民間文芸学会)	6. 最初と最後の頁 3-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 原田信之	4. 巻 38(1)
2. 論文標題 伯耆国の玄賓僧都伝説と阿弥陀寺	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新見公立大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 原田信之	4. 巻 38(2)
2. 論文標題 備中国における玄奘僧都伝説の諸相 哲多郡の意味するもの	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新見公立大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原田信之	4. 巻 37
2. 論文標題 岡山県新見市の金売吉次伝説	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 新見公立大学紀要	6. 最初と最後の頁 187-201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原田信之	4. 巻 36
2. 論文標題 トカラ列島小宝島の海賊伝説	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 新見公立大学紀要	6. 最初と最後の頁 182-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原田信之	4. 巻 31
2. 論文標題 岡山県の玄奘僧都伝説の特色 鳥取県の伝承と対比して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文化、芸術、教育活動に関する研究論叢	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田信之	4. 巻 40
2. 論文標題 沖縄県伊平屋列島のウンジャミ・シヌグ伝承	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新見公立大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件(うち招待講演 4件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 原田信之
2. 発表標題 「道の島」の民間説話
3. 学会等名 平成30年度奄美沖縄民間文芸学会名護大会公開シンポジウム「道の島」と伝承(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 原田信之
2. 発表標題 沖縄県伊平屋列島の海神祭伝説
3. 学会等名 備北人文科学学会第37回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 原田信之
2. 発表標題 備中・伯耆の玄賓僧都伝説
3. 学会等名 岡山民俗学会・御影史学研究会第4回合同研究発表会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 原田信之
2. 発表標題 岩倉市郎と昔話研究
3. 学会等名 平成29年度奄美沖縄民間文芸学会喜界島大会公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 原田信之
2. 発表標題 沖縄県伊平屋島の海神祭伝説
3. 学会等名 説話・伝承学会平成28年度大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 原田信之
2. 発表標題 岡山県新見市の金売吉次伝説
3. 学会等名 備北人文科学学会第35回学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 原田信之
2. 発表標題 沖永良部島の世之主伝説
3. 学会等名 えらぶ世之主没後600年記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 原田信之
2. 発表標題 トカラ列島中之島の海賊伝説 与助岩とブトの起源
3. 学会等名 平成27年度奄美沖縄民間文芸学会鹿児島大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 原田信之
2. 発表標題 トカラ列島の海賊伝説
3. 学会等名 岡山民俗学会・御影史学研究会第2回合同研究発表会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 原田信之
2. 発表標題 トカラ列島小宝島の海賊伝説
3. 学会等名 備北人文科学学会第33回学術集会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 原田信之
2. 発表標題 文献資料と伝説 玄實僧都を中心に
3. 学会等名 説話・伝承学会2019年度冬期大会公開シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 原田信之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 273
3. 書名 隠徳のひじり玄賓僧都の伝説	

1. 著者名 篠田知和基・丸山顯徳編(原田信之分担執筆)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 1039(272-274)
3. 書名 世界神話伝説大事典	

1. 著者名 国立劇場おきなわ調査養成課編(原田信之分担執筆)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団	5. 総ページ数 66(9-29)
3. 書名 国立劇場おきなわ上演資料集 四十一 仲村渠真嘉戸	

1. 著者名 和泊町・今帰仁村交流促進実行委員会編(原田信之分担執筆)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 和泊町	5. 総ページ数 74(31-45)
3. 書名 えらぶ世之主没後600年記念シンポジウム講演録	

1. 著者名 花部英雄・小堀光夫編(原田信之分担執筆)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 341(209-213)
3. 書名 47都道府県・民話百科	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----